



新治小学校だより

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目
～新治のよさを持続して活かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年度
9月号

令和4年8月29日

～修学旅行後記～

校長 川島 広子

夏休みが終わり、学校ににぎやかな子どもたちの声が戻ってきました。さて、少し遅くなりましたが、今回の学校だよりは7月14、15日に行った、6年生の日光修学旅行について書きたいと思います。

この3年間、コロナ禍で宿泊行事が全て中止になった6年生にとっては、これが小学校生活最初で最後の宿泊のチャンスです。学校として絶対に修学旅行に連れて行ってあげたいという思いとは裏腹に、7月になると横浜市のコロナ感染者が増加し、近隣の小学校でも感染による学級閉鎖が出ていたので、出発当日までヒヤヒヤしながら子どもたちを見守る毎日でした。

さて、修学旅行当日はあいにくの雨でしたが、仲間と行ける初めての宿泊というだけで子どもたちは笑顔いっぱいでした。いろは坂のカーブに車酔いすることもなく、迫力ある水量の華厳の滝と湯滝も霧の中に隠れることなくしっかりと見学できました。夜は益子焼の絵付け体験も行い、就寝時にはどこの部屋も消灯して就寝という素晴らしさ…。

2日目は、日光東照宮をはじめとする世界遺産「日光の社寺」やそこにある国宝をガイドさんの話を聞きながら、真剣な態度で見学していました。体調を崩す子どももおらず、「普段と異なる生活環境の中で、見聞を広め自然や文化などに親しむとともに、団体行動を通じて社会性・公共心・責任感などを養う」という目的をしっかりと達成できた良い修学旅行でした。

さて、この修学旅行で印象的だったのが買い物をする際の子どもたちの様子です。家族やおじいちゃんおばあちゃん、普段お世話になっているスポーツチームのコーチや仲間、ついでに自分にもお土産も買うので、時間がいくらあっても足りない様子。3,000円で上手にお土産を購入する計画は立てていたものの、いざとなると考えが変わったり目移りしたり…。でも、そんな悩みも楽しいのか「日光、サイコー!」「日光、マジ天国!」という声もなぜか買い物中に聞こえてきます。(「えっ!それ今言う?!」と笑ってしまいました)。3,000円という大金を自分で考えて使うことや日光でしか買えない品物を大切な人のために選ぶことは修学旅行だからこそできる経験です。自ずと真剣になる気持ちも分かります。歴史や伝統・栃木の雄大な自然から学んだことや団体行動から学んだこともたくさんあったと思いますが、家で待つ家族やお世話になっている方々に思いを馳せて懸命に考える買い物も、修学旅行でしか得られないワクワクする「主体的な学び」だと思ふ瞬間でした。

これからの修学旅行は「どこに行くか」ではなく、「何を考えさせるか」「どんな資質能力を身につけさせるか」が問われる時代となり、今まで以上に「体験」が重視される学びの場へと変化していきます。そうであっても修学旅行は子どもたちにとって一生一度の行事で、そこで起きたエピソードやストーリーは自分自身の心の中に永遠に残り、仲間といつまでも語り続けられる大切な思い出となることに変わりはないでしょう。子どもたちは修学旅行中の限られた時間の中で、多くのことを学び、大切な仲間との絆を深めたことと思います。

修学旅行に際し、健康観察等ご協力いただいた6年生保護者の皆様に深く感謝申し上げます。また、10月末の4.5年生の宿泊体験も無事に実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

